

答はすべて解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

問題一 次の文章を読んで設問に答えなさい。

クラシックやジャズ、ポップス音楽を聴いて、そのライブ演奏が気に入ったとき、人々は「ブラボー！」と誉めたたえ、「素晴らしかった」と言い、「感動的な名演だった」と批評し、あるいは感激のあまり「涙が出た」とも言う。音楽にキョウカンするこのようなことばは、確かに最高の誉めことばには違いない。

A、日本の民謡の場合、最高の誉めことばはこれらとは違う。面白いことに、老人たちの多くは、民謡の演奏に感激したときこんなふう言うのだ。

「ああ、寿命が三年延びた！」

延びる寿命が「一年」でも「二年」でもいい。年数に意味はない。「寿命」はそのことをつねに意識している人たちが、本能的に使うことばだ。気が楽になった、リラックスした。ストレスをハッサンして、ほんとうに楽しんだ。そのことを「寿命が延びた」という言いかたであらわす。生きる、あるいは生き延びる元気が出た、ということだ。それは生活に密着したところから生まれ出てくる評価のことばである。こういう批評のことばが一番怖い、とわたしは思う。

たとえば、わたしは大阪の河内地方の出身だが、この地では毎年夏のポンオドリシーズンになると、町々の小さな広場に櫓が組まれ、「河内音頭」の声が響く。河内地方には百派千人と言われるほど音頭取りが多い。声のいい音頭取りが櫓に立つと、櫓の回りを二重、三重に取り囲んでいる踊り子たちの数が、いつのまにか増えている。下手な音頭取りが櫓に立つと、みるみるうちに踊り子の数は減る。踊り子たちは、全員、町内に住む一般の人たちだ。一晩だけヒーローやヒロインになって、浴衣を着て踊るのである。この人々は音頭取りが「上手」か「下手」かについて、ことばでは何も言わない。そのかわりに、踊り子の数がレキゼンとした「批評」として成立する。これは音頭取りにとつては、目に見える批評となるのであって、うむを言わせない。

B 「河内音頭」は民謡ではない。「語り物」である。この音頭を取るとき、「うたう」とは呼ばず、「詠む」と言う。これは音頭取りが歌手ではなく、物語の詠み手であることを示している。民謡ではひとつの唄を「一曲」と呼ぶが、「河内音頭」では「一席」と呼んでいる。

「河内音頭」は民謡のようにひとつの唄のなかで一定の旋律が繰り返されるといことがない。C、決まった歌詞というものもない。音頭取りはソッキョウ的に文句を考え、それを音頭の節に乗せる。D、毎年、新しい歌詞が生まれている。古くからの伝承河内音頭の歌詞もあるが、その場合でも、一節ごとに旋律は微妙に異なっている。

「河内音頭」は明治二十年代の初期に成立したが、この音頭の構造は、中世の山伏たちが錫杖やほら貝とともに神仏の靈験を語り物として伝えた「祭文」や、それが近世に芸能化して三味線とともに語られた「歌祭文」の系譜を継いでいるとわたしは考えている。

E、上手い音頭取りが一席を詠むとき、櫓の周りに集まってくる踊り子たちは、そこで手と足を踊らせて、自らの身体をリラックスさせ、解放させられるかどうか、直感的に判断する。その判断は、身体性をともなっていて、優れた民謡を聴いた人に「寿命が延びた」と言わせるものと同じである。芸能においては、こういう素人の批評こそが怖いのである。

クラシックやジャズ、ポップス音楽を聴いた人たちから、「寿命が延びた」というような批評のことばをわたしは聴いたことがない。F、若い人たちは「寿命」ということばを使わない。彼らはその若さによって、自らの「寿命」が長く続くことを錯覚する権利がある。

しかし、音楽演奏を評価することばで、「寿命が延びた」とは、その音楽が聴く人のGに充分に入っただということを示している。そうであるなら、クラシック音楽のピアノでもヴァイオリンでもフルートでも、老若男女を問わず、聴く人たちに「寿命が延びた」と言わせる演奏こそが、最高の演奏だ、と言っている。そこにおいては、芸術と芸能の違いはない。わたしたちは音楽を評価するとき、生活感を持ったことばをあまりにも持たなすぎるのである。

(佐々木幹郎『東北を聴く——民謡の原点を訪ねて』二〇一四年 岩波新書 ただし、本文に適宜ふりがなを加えた。)

問一 —— 線①～⑦のことばを、かたかなは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

問二 —— 線部⑧「老若男女」のように、多様であることをあらわす四字熟語には、他にどのようなものがあるでしょうか。思いつくものを一つ答えなさい。(「春夏秋冬」のように、ただ4項目を並べたようなものはだめです。)

問三 空欄A～Fに入る語を次から選んで記号で答えなさい。(ただし、同じ語は一回しか使えません。)  
 ア ともあれ    イ もちろん    ウ したがって    エ また    オ ちなみに    カ しかし

問四 —— 線⑨「確かに最高の誉めことばには違いない」という裏にはどんな気持ちがかもっていますか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア これ以上の誉めことばはありえない
- イ なんだか心がこもっていないような気がする
- ウ もっと別の誉めことばがあってもいいのではないか
- エ ことばとしては最高だが、もっと別の表現方法もある

問五 —— 線⑩「寿命が延びた」を説明的に言い換えるとどんな表現になりますか、文章中のことばで答えなさい。

問六 次の文は、1段落めから3段落めの中で、どこに入りますか。選択肢から選んで記号で答えなさい。

いや、音楽を批評しようという意識すら成立しないところで、実感として生まれてくることばだ。

- ア 「確かに最高の誉めことばには違いない。」の後
- イ 「そのことをつねに意識している人たちが、本能的に使うことばだ。」の後
- ウ 「生きる、あるいは生き延びる元気が出た、ということだ。」の後
- エ 「生活に密着したところから生まれ出てくる評価のことばである。」の後

問七 —— 線⑪「たとえば」以下の「河内音頭」についての文章は、何についてのたとえでしょうか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア 老人たちは音楽に感激すると「寿命が延びた」という。
- イ 「寿命が延びた」とは、生活に密着した評価のことばだ。
- ウ 実感として生まれてくる批評が一番怖い。
- エ 芸能の世界では、ことばではない批評が成立する。

問八 —— 線⑫「芸能においては、こういう素人の批評こそが怖い」というのは、裏返せば「芸術」ではどうなってしまうのでしょうか。簡潔に答えなさい。

問九 —— 線⑬「錯覚する権利がある」という言い方は、若い人が「死」を意識しないことについてどうとらえているでしょうか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア それでいいと思っている
- イ それではいけないと思っている
- ウ しかたがないことだと思っている
- エ ばかだなあと思っている

問 十 空欄Gに入る2字の漢字を文章中から選んで答えなさい。

問十一 若い人は、「寿命が延びた」とは言わないでしょうが、それに代わる「生活感を持った」ほめ言葉を考えてみてください。

問題二 次の文章は中原淳一(画家・雑誌編集者・ファッションデザイナー…)。昭和初期から昭和四十年代にかけて活躍した。Gが、戦後すぐに発刊した雑誌『ひまわり』に載せたものです。これらを読んで設問に答えなさい。

戦争が終わって一年半、皆様の服装は確かに、美しくなってきました。しかし、皆さんの服装についての考え方の底にあるものを静かに考えてみますと、二つの流れがあると思います。つまり、戦時中、美しいということが罪悪であるかのように見られていたこと、一つのを効果的に美しく用いるということが国民精神に反するともいうように考えられていたこと、同じものでも、出来るだけ美しくなく身につける方が、健康的で<sup>①</sup>素朴な美しさと呼ばれるような傾向があつて、それが醜ければ一番問題がなかったというような考え方から抜け切れないで、美しくあることを誰かに遠慮しているような人や、また美しさに対する感覚を失ってしまった人々。それと、もう一つは、突然目の前に開かれた自由という美名に<sup>②</sup>便乗して、無反省に着飾っている人々です。一見美しい色彩が氾濫しているようですが、ほんとうに美しさを身につけた人の少ないのは、そこに原因があるのではないのでしょうか。とにかく、皆さんに一番大切なのは、よく手入れのゆきとどいた清潔な服装を身につけることができることです。美しさ<sup>③</sup>ということは、<sup>④</sup>派手な色調や変わったスタイルにばかりあるのではないということをよく心に留めておいていただきたいものです。(『ひまわり』昭和二二年一月号)

日本の国が美しい国になる事は、日本人の一人一人が美しくなろうと心掛ける事だけに懸<sup>か</sup>つているのだと思います。(『ひまわり』昭和二三年一月号)

誰だつて美しくなりたいと思わない人はいないでしょう。美しくなるということは、他の人たちに、美しいと認めってもらうことだと思つてはいけません。美しいものをみた時には、皆、<sup>⑤</sup>ころよい気持になります。自分が美しくなるというのは、皆の気持をよくさせること、つまり、自分のみにくい所を、人にみせて不愉快にさせてはいけないという心づかいです。(『ひまわり』昭和二五年九月号)

思い出の豊富な事が、どんなにあなたの生活を豊かにし、楽しいものにするものでしょう。それはあなたが、その時代を、<sup>⑥</sup>真剣に、<sup>⑦</sup>注意深く生活した賜<sup>たまもの</sup>です。<sup>⑧</sup>怠惰な生活からは、印象は<sup>⑨</sup>稀薄になり、わずかな苦い思い出が、あなたの心を<sup>⑩</sup>蝕<sup>むし</sup>むだけです。

それゆえ、日々の生活を、決しておろそかにしてはいけません。あなたの行為は、何年か経た後の思い出に、時にふれ、折にふれては<sup>⑪</sup>裁きを受けます。あなたの行為の一つ一つに、強く責任をもちましょう。真剣に、注意深く。あなたの楽しい思い出のために……。 (『ひまわり』昭和二二年六月号)

(『中原淳一少女雑誌『ひまわり』の時代』二〇一一年 河出書房新社 ただし、原文から一部ふりがなを除いた。)

問一 ――線部①～⑥の漢字の読みを答えなさい。

問二 これらの文章から、著者にとっての「美しい」とは、どういうことだと考えられますか。(できるだけ解答欄いっぱい書いてください。)

問三 これらの文章から、著者が考える「美しい」人になるためにはどうすればいいと思いますか。(できるだけ解答欄いっぱい書いてください。)

問四 著者は、どんな読者を対象にこのような文章を書いていると思いますか。想像して答えてください。(できるだけ解答欄いっぱい書いてください。)

試験時間 60分	国語(国語総合) 解答用紙
採点欄	受験番号

問題一

	①
⑥	②
⑦	③
	④
	⑤

問二

--

問三

A
B
C
D
E
F

問四

--

問五

--

問六

--

問七

--

問八

--

問九

--

問十

--

問十一

--

問題二

問一

①
②
③
④
⑤
⑥

問二

--

問三

--

問四

--

国語(国語総合)解答用紙		受験番号
試験時間 60分	採点欄	

問題一

① 共感	② 発散	③ 盆踊(り)	④ 歴然	⑤ せんりつ
⑥ 即興	⑦ ついで			

問題二  
花鳥風月(例)

問三	A	カ	問四	ウ
	B	オ	問五	(生きる、あるいは)生き延びる 元気が出た(例)
	C	エ		
	D	ウ		
	E	ア		
	F	イ		

問題六  
エ

問七  
ウ

問題八  
芸術では専門的な人の評価を重要視する(例)

問題九  
ア

問十  
身体

問十一  
ぐっすり眠れそうだ(例)

問題二

問一	① そぼく	② びんじょう	③ はで	④ たいだ	⑤ きはく	⑥ さば(き)
----	-------	---------	------	-------	-------	---------

問二  
使い方によって美しくも醜くもなる。他人を不快にさせないこと。行為や心がけの反映。(例)

問題三

問三  
美しいかどうかということを意識する。他人に対する心づかいを忘れない。清潔感のある服装をする。(例)

問題四

問四  
戦争中におしゃれをできなかった若い女性。あるていど豊かな、一般的な家庭の子。まじめな子。(例)